HOKKAIDO UNIVERSITY

| | |
|---|---|
| Title | 札幌農学校第二農場モデルバーン（模範家畜房） |
| Author(s) | 眞崎, 睦子 |
| Description | 北大施設探訪 |
| Citation | リテラポプリ, 31, 15-15 |
| Issue Date | 2007-07 |
| Doc URL | https://hdl.handle.net/2115/42598 |
| Type | article |
| File Information | masaki_LP31-15.pdf |

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

施設探訪

# 札幌農学校第二農場モデルバーン
## （模範家畜房）

メディア・コミュニケーション研究院　眞﨑　睦子

今年も北大に遅い春がやってきた。旧教養の周辺では学生たちがどういうわけだか集団で楽しそうに踊っている（後で聞いたところクラスマッチという運動会のような行事のためらしい）。ちょっとうるさいし、うらやましいじゃないか。枝いっぱいに白いハンカチをふるモクレンさん、あなたまで…。モデルバーンで静かにたたずむ徳福さんに会いに行こう。行ってみたら木の扉に鍵が。四月二九日にならないと開かないそうだ。出直すことに。

「この道をまっすぐ行けば北大から出られますか」

ひんやりとした五月のある日、北十八条のロータリーで尋ねられた。そうである。色んな意味で北大からはそう簡単に出られない。

「出ようと思えば出られます。が、お急ぎでなければ、こちらに重要文化財のモデルバーンがありますからご覧になっていかれませんか。ご案内いたします」

「モデルバーン…」

ご夫婦は顔を見合わせられたが、無害な人間だと思ってくださったのだろう（ありがとうございます）、私についてきてくださった。

「干草のいいにおいがする」

聞けば、昭和三年生まれの寒河江正衛（さがえまさえい）さんは、奥様（千鶴子さん）と二人、生まれ故郷の北見を六〇年ぶりに訪ねられた帰りで、北大を散歩した後、「北斗星」で茨城県取手市に戻られるという。十九歳までいらした北見では牧場や畑の手伝いもされていたそうだ。

「ああ、馬にこの鈴をつけて雪の中、そりを引かせるとチンチンチンと音がして、なつかしい」

「ほら、天井の穴は二階から干草を落とすためですよ」

いつしか寒河江さんが案内役に。初対面の徳福さんをなつかしそうになでる千鶴子さん。

「足もと、気をつけてくださいね」

何度も訪れたモデルバーンの二階は私も初めてだった。

「プラオー！ああ、わたしたち、プラオー、プラオーと呼んでいたが、プラウなんだ」

「もともと英語ですから。きっとどっちも正しいんですよ」

プラウとは農業用の「すき」のこと。北海道の農機具は「内地のものと違う、大きい大きい」と鹿児島生まれの千鶴子さん。

「あれはハローじゃないか、あれでかたい土くれを砕くんだ」「三畦カルチベータ、一畦じゃなくて三畦だよ、ハロー、レーキの出現」と主要項目年表の前でそれぞれの農機具の説明をしてくださる正衛さん。飼料保管庫の前では馬の状態によって粗飼料に栄養のある穀物を混ぜることも教えてくださった。

「北海道最後の日にいい思い出ができたね、きっと今晩はずっとこの話だね」

お二人は無事、北大を出て行かれた。そしてモデルバーンもいつものように暗くひっそりとした房にもどった。徳福さん、あなたも昔は春がくれば学生たちのように外で仲間と踊ったり、走りまわったり、冬には鈴をつけてそりを引いたりしていたのでしょうか。

そのとき、その声は、アカシアのように私に降ってきた。

「だれかいますかー、鍵、しめまーす、だれかいますかー」

「はーい、いまーす、ここにいまーす」

（まさき　むつこ）